

CASE
2

印刷会社発 秋田みやげの新定番

商品を通じて秋
田県全体を盛り
上げていきたい
と三浦社長



再訪 [有限会社 米内沢中央印刷]

前回掲載
2016年4月号

〒018-4301 秋田県北秋田市米内沢字寺の下 33-1 / TEL0186-72-3103・FAX0186-72-5213
E-mail: y.tyuou1@cpost.plala.or.jp

旧森吉町米内沢の中心地で印刷業を営む「米内沢中央印刷」。創業から64年、地域を支えてきた印刷所だが、近年の人口減少の影響は大きいという。市町村合併や学校の統廃合も進み、印刷物の受注は激減。厳しさを増す経営状況の中、三浦社長夫人の孝子さんのアイデアにより開発されたのが「ほっこりふるさと秋田」シリーズの一筆箋だ。県内の名所や祭り、自然や動物などの写真が印刷された一筆箋は、空港や駅、観光施設のお土産店などで販売されている。観光客や県外への手土産として人気が、発売数は年々増加している。好調の一筆箋だが、発売当初は印刷に1色機を使用していたため、印刷するのに4回刷る必要があった。当センターの設備貸与制度を活用し、カラー印刷機を導入してからは、効率が格段に上がったという。秋田犬の写真が目を引く「秋田のメモっこ」「あきたい



センターの設備貸与制度を利用し、オンデマンドカラー印刷機を導入。一筆箋の製作効率もアップ。



掲載された写真や解説はすべて許可を取り、内容も確認済み。長年、印刷業に関わってきた誇りが感じられる。

めだもん」など、新商品の開発も進む。三浦社長自ら撮影しているという写真も好評で、リクエストによりポストカードも製作。「これからも、“心に響く秋田のお土産”を作っていきたい」と孝子夫人。夫婦二人三脚で作上げた商品の、今後の発展が楽しみだ。

CASE
3

検査体制充実で業績アップ

「測定器導入で
可能性が広が
った」と語る佐藤
勝美工場長



[秋田部品株式会社 | <http://www.akita-buhin.co.jp>]

〒013-0105 秋田県横手市平鹿町浅舞返り諏訪 200 / TEL0182-24-3314・FAX0182-24-3312
E-mail: tamakun@blue.ocn.ne.jp

昭和57年創業の「秋田部品」は、自動車の機構部品を中心に各種精密部品の製作を行っている。

平成29年1月、当センターの設備貸与制度を利用して、形状測定器と円筒径真円度計測器の導入を実現した。

「今までは、計測器を持っている納入先に部品を持ち込んで測定を行っていた。正否の確認ができるまで作業を止めて待つという効率の悪さがネックだったので、導入は必須だった」と佐藤工場長。この導入で社内に必要な機器がすべて揃い、設備としてはパーフェクトの状態を受注できるようになった。

今回の導入は日産系列からの純正部品製作の受注がきっかけだった。会社としては大きな投資だが、それ以上に「作業の無駄をなくしたことで、仕事の質が上がった実感がある」と佐藤工場長。今年になって医療機器やリニアな



秋田部品の製作する自動車の機構部品の一例。パーツ毎の納品のほかに、全てを組み上げての納品も行う。



今年1月に導入した形状測定器と円筒径真円度計測器。現在は測定器を扱える人材の育成・増員にも取り組んでいる。

どの新たな仕事の打診も増え、仕事の可能性が広がってきたのがその証拠だ。

大きな転換期を迎えた「秋田部品」、今後も業績を順調に推移させ、将来的には地元の若者の雇用にも貢献したいとしている。